

ヒロシマ ユネスコ

広島ユネスコ協会は、1973年に設立。世界遺産や寺子屋運動の推進に協力し、ユネスコ活動奨励賞の授賞や韓国・大邱広域市との交流、平和の鐘事業などを行っています。

広島市と大邱広域市

ユネスコ協会が第4次協定



協定書を交わす南会長(中央左)と北川会長(同右)

10月20日午前十時半、韓国ユネスコ大邱協会友好訪問団(団長南相杰会長)をはじめ九名を、北川会長など数名が歓迎幕でお迎えし、再会を喜びありました。

この後、広島城を見学して、お好み焼き交流をしながら、楽しくいただきました。縮景園で日本庭園の美しさを観賞後、会員達の案

友好と国際理解深め、平和と信頼の絆さらに!!

— 2000年に初提携 —

記念パーティーには六十三名の出席者がありました。アトラクションでは大邱広域市出身の音楽家 車景實さんをお迎えし、

内で買い物に出かけました。午後六時、広島市文化交流会館で行われた、第4次姉妹協会提携調印式では、立会人に駐広島大韓民国領事 李永煥様と、広島県日韓親善協会専務理事 玉木實様を迎えて、韓国ユネスコ大邱協会の南相杰会長と北川会長の両者が提携調印文書に署名し、文書を交換しました。

「40周年事業」へ協議を開始

広島ユネスコ協会は、来年度、設立四十周年を迎える。このため、去る七月、正副会長、部長など構成する実行委員会を設置し、

来年度事業計画に組み込むべく協議を開始した。

現在、記念誌の発行、記念式典と祝賀会の実施、来年度当協会が受け持つ中国

ブロックユネスコ研究大会での、当協会ユネスコ活動奨励賞事業の成果発信などを候補として挙げている。

詳細についてはこれから。

(副会長 古田碩永)

また二〇一〇年、大邱市を親善慰問公演された広島童謡愛好会のメンバーに、日韓の歌を演奏披露していただきました。各テーブルで交流が行われ、最後には出席者全員が輪になって、アリアンを合唱し日韓の絆を深めました。(2ページ)

日本国広島ユネスコ協会・大韓民国UNESCO大邱協会 第4次姉妹協会提携に関する協定書

日本国広島ユネスコ協会と大韓民国UNESCO大邱協会は広島市と大邱広域市との友好関係を礎に永続的な発展を推進する。両協会はユネスコ精神の下に会員相互の友好と国際理解を一層深めて平和と連帯に貢献するため、2000年姉妹協会提携協定に締結し、次いで、2004年と2008年と重ねて提携協定に調印した。この成果に基づき、さらに一層の発展を図るため、協定を継続する。

〈交流事業の内容〉

第1条 両協会は、この目的のもとに、次の分野において相互交流と協力に向けて努力する。

- (1) 国際理解に関する事項
- (2) 文化、芸術・学術及び教育に関する事項
- (3) 青少年に関する事項
- (4) そのほか、両協会が希望する事項

〈交流事業の実施〉

第2条 前条に定めた事業の実施に当たっては、両協会が協議し、実施する。

- 1項 訪問派遣は交互訪問とする。
- 2項 派遣に関する渡航費、滞在費〈食費、滞在費、交通費等〉は派遣側が負担する。

〈有効期間等〉

第3条 本協定書の有効期間は4年とする。
なお、有効期間後の継続については、両協会の協議に基づき、合意の上決定する。

〈改変〉

第4条 締結期間中の改変などについては、両協会の協議に基づき、合意の上決定する。

〈使用語〉

第5条 この協定書は日本語と韓国語により作成し、両協会に各1部ずつ保有する。

2012年10月20日

日本国広島ユネスコ協会
会長 北川 建次

大韓民国UNESCO大邱協会
会長 南 相杰

④慰霊碑に献花 ⑤原爆ドームをバックに



二十一日午前中、広島平和記念公園を訪問して、資料館見学後、韓国人原爆犠

牲者慰霊碑に献花、平和への誓いを新たにされました。午後、宮島訪問。ここで

は宮島ユネスコ協会 井口健会長案内で、厳島神社を拝殿して、ユネスコ世界文化遺産を観光されました。午後六時、広島ユネスコ協会北川会長、木村副会長などが招かれて、答礼夕

食会があり、南相杰会長から来年五月大邱市で開催される韓国ユネスコ協会全国大会に、多数参加してほしいとの要請がありました。

二十二日午前十時、アステルプラザを出発して、神楽門前湯治村(安芸高田市)を訪問。政岡峰子会員のお世話で、一四〇〇年の歴史を誇る高林坊(お寺)に招かれ、羊羹と抹茶をいただき、美しい庭園を觀賞。その後、政岡さんのお店でカラオケを堪能し、友好と親

善を確かめました。温泉で疲れを癒し、地元有志お二人の津軽三味線の演奏を鑑賞して、素敵な日本料理を召し上がっていただきました。

翌日午前六時、神楽門前湯治村の中型バスで出発し、広島駅へ。駅では多くのユネスコ協会の見送りを受けて、新幹線で博多まで行き、午前十時のビートル(高速船)で帰国されました。

あわただしい四日間の親

善・友好の旅でしたが、両協会の友好の輪はいつそう広がり、深まったと確信しております。来年の大邱訪問には、広島から多くの会員の皆様に参加されまことを、心から期待しております。

(国際部会
藤井正二)



パーティーで輪になってアリランを合唱

核戦争防止
国際医師会議
(NIPP) 世界大会

広島を代表し
被爆証言に立つ

核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) は、一九八五年にノーベル平和賞を受賞した六二カ国一〇万人の会



ヒロシマから未来の世代へ — をテーマに開かれた世界大会 (8・24)

延べ約一六〇〇名の参加を得て、第二〇回世界大会が広島で開催されました。被爆して診療した医師たちはもう亡くなっています。そこで「被爆医師の証言を小生がしました。爆心地から九〇〇メートルの至近距離で屋内被爆をし

て、家の下敷きになりながら曳きずりだされ、悲惨な光景の中を逃げて嘔吐、下痢、とびひの多発など放射線急性症状に苦しみました。終戦を知り進駐軍に怯え、郊外へ逃避する途中に寝込んでしまい、頭髮も抜け、全身がだるく寝込んで反原発か否 「いずれにしても、もう被爆者の議論集中 を生じさせてはいけない」

春夏秋冬
明日(あした)へ
想いを込めて
- 4 -

IPPNW 日本支部理事 木村進匡氏



【おむすびの会】

IPPNW日本支部理事。

一九三七年五月十八日生まれ、七十五歳。四十五年八月六日、八歳の時、広島市中央区榎町の自宅で被爆。十二指腸癌も患う。精神科、内科医師を経て、七十三年から神経科内科クリニック院長。広島ユネスコ協会副会長。

しまいました。ようやく生き延びてのち、医師となり、白血病、癌などの原爆後障害を知りました。遺伝への影響はまだ結論が出ていません。小生は六十三歳時に十二指腸癌になり、同じく被爆した妹は、乳癌、甲状腺癌になり今も肺や骨に転移して苦しんでいます。

今回の大会では、福島での原子力発電所からの放射線障害に話題が集中しました。核の平和利用でも実際に核被害が起こります。エネルギー問題があり、反原発か否かの議論が集中しました。いずれにしても、もう被爆者を生じさせてはいけないのです。

【IPPNW】

核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) は、一九八〇年に米・ソの医師が中心となって発足。これまで米・ソをはじめヨーロッパ諸国、日本(一九八九年、広島で第九回大会など各国で世界大会を開催してきた。今年八月の大会は二十回目。広島での大会は二十三年ぶり。核戦争の防止と世界の平和を強く訴えてきた。



高校生らも参加し 「平和の鐘」の集い

さる八月十五日、「平和の鐘」の音が世界に届くことを願って、高校生らも参加し、十三回目の集いが行われました。これはユネスコが提唱し、国連が決めた「平和の国際年」の活動の一環として、取り組んでき



平和の鐘をつく高校生ら（8・15）

たものです。

「平和の原点」である広島から、民族や宗教、文化、世代の壁を超え、そして又広島滞在の外国の方々の参加も、回を重ねることに、増えてきたように思われます。今後も市民と共同の行事として広がっていくことを願っています。

（平和・世界遺産部会 柴田幸子）

伝統文化を学ぶ おとなの寺子屋

理事 世木田 寛子

子どもの頃、当たり前前にしていた家族の団らん、行事、兄弟や友達との遊び、歌。そこには秘められた伝統文化がありました。今はその光景が消えつつあることに寂しさを感じ、身近なユネスコ会員に「寺子屋を



つくろう」と、声掛けをしました。

すぐに足立、梅本、河野、藤川さんとクラーク高校の賛同を得ることができ、九月から「おとなの寺子屋」という名でスタート。好評です。気持ちに通じる受講者と楽しくやっています。主催となってくださった宇品公民館に感謝。今年度だけでなく持続できることを願っています。

「ひろしまと世界を 結ぶごども文庫」 活動展示より

「文庫」代表 柴田幸子

私たちは、一九九五年、北京で開催された第4回世界女性会議のNGOフォーラムに参加し、ひろしまの市民が取り組んできた「核



兵器の廃絶と平和の創造」について、世界の人々と話し合うことができました。平和で美しい地球の未来を願い、「ヒロシマの絵本」を世界に贈りはじめて十七年がたち、百五十カ国となりました。その活動の様子を写真に、記録を世界地図にまとめたものを、十一月十八日の「国際交流・協力の日」に展示しました。

「平和な世界づくりに挑戦するユネスコ」 12・23に国際理解セミナー

今年も青少年センターと共催し、高校生国際理解セミナーを、来る十二月二十三日（日・祝）に青少年センターで開催します。

今年も青少年センターと共催し、高校生国際理解セミナーを、来る十二月二十三日（日・祝）に青少年センターで開催します。

今年も青少年センターと共催し、高校生国際理解セミナーを、来る十二月二十三日（日・祝）に青少年センターで開催します。

午前中は、当協会の副会

長である中山修一氏（広島大学名誉教授）による基調講演「平和な世界づくりに挑戦するユネスコ」、山陽高等学校と広島市・大邱広域市青少年交流事業への参加

者による事例発表・意見交換を行います。

午後からは、八丁堀に移動して、コアアクション（世界寺子屋運動募金活動）を行います。

多数のご参加をお待ちしております。

（青少年育成部会 國田 繁）

広島ユネスコ 活動奨励賞決まる

ユネスコ精神の理念を踏まえて、「平和の文化」を築く実践的な活動（国際理解・協力・交流、自然環境保全、地域遺産の啓発・保護・継承などの活動）を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞（今回第一五回）が、厳正な選考を経て5校、7団体に贈られることが決まりました。表彰式は来年一月十九日

（土）、広島市文化交流会館で開催される予定の「新春フェスタ」の中で行います。

- 受賞校・団体一覧**
- 【学校部門】
 - ・広島市立幟町小学校
 - ・広島市立早稲田中学校
 - ・広島市立落合中学校
 - ・広島山陽学園山陽高等学校

- ・広島経済大学 広げよう!! 平和折り鶴プロジェクト
- 【社会部門】
- ・NPO法人 小川内OPプロジェクト
- ・NPO法人 ビザサポートセンター広島
- ・セイブ・ザ・イラクチルドレン広島
- ・平和大通り樹の会
- ・シユモーさんの「ひろしま家」を語りつくす会
- ・ひろしま通訳ガイド協会
- ・ひろしま音読の会

永井滋郎元会長のご逝去を悼んで

広島ユネスコ協会元会長・顧問 伊東亮三

十月二十六日夜、広島ユネスコ協会元会長の永井滋郎先生が九十歳でお亡くなりになった。謹んで哀悼の意を表したい。先生は高知県のお生まれ、広島高等師範学校、広島文理科大学ご卒業の後、兵役につかれた。戦後、そのご学識とお人柄をかわれ、母校広島大学附属中・高等学校の教諭に招かれ、世界史を担当された。また先生はその語学の才能を生かされてユネスコの国際理解教育の活動に参加され、その実績を評価されて広島大学教授にご就任、研究と教育に精進され

高橋昭博さんを偲ぶ会

しは秋葉忠利 前広島市長や

昨年十一月二日に逝去された高橋昭博さん（広島ユネスコ協会元副会長）を「偲ぶ会」が、十一月七日、広島市内で開かれました。この催

当ユネスコ協会の北川建次会長らが発起人となって開催されたもので、高橋さんの平和実現への遺志を継いでいくことを誓いました。



報告

協会会員 内田一士

九月十五日、十六日に香川県高松市において、第六十八回日本ユネスコ運動全国大会が、「つなげよう平和の心 築こう平和の文化―地球から世界へ、大切なものを守るために―」をテーマに開催され、広島からは亀井章、井尾義信、内田一士の三人が参加しました。

人と人の「絆」が必要な時代である今だからこそ、地域から世界へ向けて平和の文化を築く決意を新たにするとともに、次世代へ平和の心を伝えていく私たちの使命を確認する大会でした。

基調講演として黛まどか氏が、「東日本大震災を通して見た日本人の美德」について話されました。鼎談として「私たちができる平和への提言」をテ

ユネスコ全国大会に参加して

つなげよう平和の心、築こう平和の文化

マに、新田恭子（公益社団法人セカンドハンド創設者）、平野啓子（日本ユネスコ初代広報大使）、本広克行（映画監督）が、エピソードを交えて話し合われました。難しい理屈はさておき、思い立ったら行動することが大切だというお話でした。

青年企画プログラムは「平和と巡礼文化」をテーマに、高松短期大学秘書課で「地域観光」を学ぶ学生さんたちが、四国八十八箇所を巡るお遍路さんへのおもてなし文化について、体験を通して、地域に根付いている慣習文化として紹介しました。

レセプションのスピーチで韓国の元ユネスコ役員の方が、「竹島や尖閣諸島など領有権問題で政治関係は冷えて無力化していますが、私は民間の親善大使としてこの大会に参加し、皆さんとの友好を深めたい」と話され、場内は拍手喝采となり、感銘を受けました。

へあせろべ

国際交流や親善友好を進める市民団体が主体となった、国際交流フェスティバル「へあせろべ2012」が、十月二十八(日)、広島市中区の中央公園芝生広場で開催されました。

広島ユネスコ協会も、昔ながらの伝承遊び(シャボ

ン玉や折り紙、ミニ凧、竹とんぼ遊び、木工細工づくりなど)のコーナーを企画し参加。この中で、先着順にプレゼントとして準備されたミニ凧は、たちまち「売り切れ」といった状況で、終日、コーナーは、市内在住の外国人や子ども連れの市民でにぎわいました。

ボランティアで運営に協力していただいた皆さまに、感謝します。



日誌

〈12月8日〉

- 1日/広島ユネスコ活動奨励賞推薦委員会
- 3日/英語でまち歩き・高校生(青少年育成部会)
- 6日/大邱広域市青少年交流団広島市受け入れ、昼食歓迎会
- 15日/平和の鐘(平和・世界遺産部会 広島平和公園鐘楼前)

〈9月〉

- 13日/広島ユネスコ協会40周年記念事業打ち合わせ会議
- 15日/第68回日本ユネスコ運動全国大会(高松市)
- 〈10月〉
- 6日/第153回ユネスコサロン「コレクションで迎える広島県立美術館の歩み」講師 前呉市美術館館長 倉橋清方さん
- 6日/会員交流会(組織部会)
- 6日/高校生をつどい打ち合わせ会議
- 〈教育・青少年育成部会〉
- 4・11・18・25日/はじめてのハンケル
- 10日/広島ユネスコ活動奨励賞推薦委員会(教育部会)
- 16日/第82号編集会議(広報部会)
- 20日/23日/大邱ユネスコ協会友好広島訪問
- 25日/広島ユネスコ活動奨励賞選考委員会(教育部会)
- 28日/へあせろべ(国際部会 中央公園)

協会会員

湯浅清治氏



初めまして。平成二十三年秋に入会しました。それまで協会と直接に関わりはなかったのですが、教職に、それも社会科地理という教科に就いていましたので、諸先生方が関わっておられるなど、協会の活動は知っていました。

この春、広島大学附

属中高校を定年退職するのを機に、中山修一先生からお誘いを頂きました。あと数年雇用で勤めますが、一歩ずつ参加できればと思います。ご指導の下、お役に立てれば幸いです。

今私の最大の関心は、森林・耕作放棄地のあり方、つまり里山の将来です。数年来、様々な活動が始まり、里山・里川・里海が表題に付いた書籍の出版が増えてきました。「持続可能な社会」の基盤の仕組みとして、ユネスコ精神の一環として、その世界的展開を見守りたいと思います。

広島ユネスコ協会のひと顔

平和文化センター理事

小川順子さん



みなさんこんにちは!! いつも「国際交流協力の日」でお世話になり、御礼を申し上げます。私は中山先生が広大I D E C (大学院国際協力研究科) にいらつしやる頃から、国際協力やESDでのご指導をいただき、ユネスコ的事も存じておりました。今回ユネスコ活動奨励賞推薦委員会をお受けし、すぐ会員にならせ

ていただきました。平和文化センターで「平和」への取り組みのお手伝いをしつつ、この「平和」という二文字の実現がいかに難しい事であるか考えさせられています。タイム、モンゴルの活動を四年前に終了、現在は足元の問題「多文化共生」に努力しております。「人の顔ほど意見はあるが、実践は人の心をひとつにする」。これは私がボランティア三十年の中で、いつも大切にしてきた言葉です。ボランティアを継続した事により、一番育てられたのは私自身だと実感しております。これからもどうぞよろしく!!

- 14日/広島ユネスコ活動奨励賞リーフレット会議(教育部会)
- 17・18日/中国ブロック・ユネスコ活動研究会(宇部市)
- 18日/国際交流・協力の日(国際部会)
- 29日/理事会・親睦交流会(12月)
- 23日/高校生のつどい(教育・青少年育成部会 青少年センター)